

# 小田原史談

第76号

発行所 小田原史談会  
小田原市西宿山3310

## 相模国初期の国府と

### 国分寺の所在地はどこか

内田 武雄

#### 国府と総社に就いて

石清水八幡宮文書の保元三年十二月三日付の同社目録に「相模国旧国府別宮」とある旧国府も榊葉集に言う古国府と同じ地即ち府中の第一期国府の地を別の言葉で言ったものと解すべきである。榊葉集の神領地は石清水八幡宮文書の別宮の地で、国府海(こうみ)付近の下曾我駅前にさいきん、総社蔵所と言う地名を見つけることができた。その地に総社があったのではなからうか。

それは相模国曾我絵図天正版破板に付再板という木板ずりの絵図面よりみつけだすことができたのである。いつころ総社が蔵所になつたかはあきらかではないが、下曾我別所の小沢大明神の記録文書の中に当地方も乱国中で前後数年月戦争ひき続きそれがために、当方も平民となるなれどもと言ふ文書がのこっている。この文書は後日の写しとも思はれるが、とにかく戦後の処理に就いてあるいは総社が蔵所になったと言ふことも考えられる。

#### 一宮跡 市の宮と市場に就いて

今小田原市成田の中庭と言う所に一宮と言う宮跡がのこっている、これは明治の初めに成田の三嶋神社に合祀されて今ではそのあとが大きな古墳のような形而上には松の木や其他の木が



植えてある。新編相模風土記には市の宮と書いてあるが、このお宮のあった前の家山長次郎さん方の庭さきに昭和四十九年六月新しい祠ができて今まで米山家に伝はっていた木綿のそめ抜きのはりが納めてある奉納一宮大明神文政元年戊寅年十一月吉日願主永塚村小間物屋糸とそめぬいてあ

るので多分女の人の寄贈である。これが一の宮社か、市の宮社か判然としないが、もし奈良時代からの市の宮であれば千代の国分寺の南大門よりまっすぐ南に通ずる路を中心として右京区と左京区とに市場もあったことも考えられる。

左京区の千代と別所さかいの市見川の向うの町屋田と言う所で市が開かれたのであろう。

新編相模風土記にも正保の国図にも剣沢と言う所で年々上巳には此処にて互市をなし農具等を交易す、と書いてある。又下曾我別所の神保駒吉氏宅にはお奉行様よりこの市の取りしまり状もあるといはれている。

今ではこの市場跡と思われる所は梅林になっているので曾我の梅の名所として一役かっている。又市女に就いては千代の地名に卜免

#### 国司石上宅嗣と加茂神社

今小田原市成田と延清、矢作のさかいの地名に、石上台(里人は石神台)とも言う所は天平宝字元年六月相模国の国司に成った石上台宅嗣の住んで居た所と言はれている。石上台の前の地名に衛府畑けと言うそうとう広い場所がある。

ここが右衛門府(右京区にあたる関所)であったようである。その西隣の地が今小田原市飯泉の田中前と言う所で、衛府の役人の居所と思われる、この田中部落はさいきんまで七、八軒ぐらいいしか戸数がなく部落の外まわりはしぜん堀と土塁にかこまれて、ようがいけんごの地である。土地の人はここに田中城と言ってお城があったのだとも言っ

このような事情から、総(二頁下段へつづく)

# 郷土の生んだ土(っち)の思想家

## 二宮尊徳先生の遺跡をたずねて

二宮尊徳先生没後百二十年。九月二十一日、残暑なおきびしい中を、立木望隆先生の先導でその遺跡をたずねる。

城内二の丸の雷曲輪跡に建つ報徳二宮神社は、ときの城主大久保忠真公の抜擢と保護によって活躍し、また藩家老服部家の仕法を行い、天保八年には城内の米倉を開放させて数万の飢餓人を救ったことなど、小田原城と関係が深いので尊徳の高弟福正正兄らの努力により特に城内をえらんで建社されたもの。宝物殿には八十余種の関係遺物が陳列されてあるが、尊徳着用の「単衣」は鯨尺で身丈三尺九寸、六尺近い人なみすぐれた体格の持主だったことがわかる。『一家を廢して万家を興す』藩主忠真公によって、その分家宇津氏の下野国芳賀郡桜町領復興を要請されたとき尊徳は、一家を廢して万家を興す決心を、田地、家財一切を売払って桜町に移住した。蓮上院の境内には豊田正作の墓がある。豊田正作は

小田原藩士で、支藩の桜町勤帯に赴任して以来、尊徳の桜町仕法に悉く反対の態度を示したが、仕法の業績があがってゆくのをみて、やがて彼の支持者にまわるのである。以後尊徳の門下生となる、尊徳門人中最も異色の人物といわれる。安政四年三月四日六十七歳で死去。

網一色八幡神社前の旧道から酒匂川に達する堤防を下った河原(表彰遺跡)は忠真公が領内の奇特者、孝子三〇余人を表彰した際初めて尊徳と面会し、後の彼の生涯に大きな影響を与えたところだという。

飯泉觀音堂にて。尊徳少年期(金次郎)の「初発願之像」を見る。

金次郎は十四歳で父を亡くし、幼い兄弟二人と母を助けて家業に励むなかで、たまたま観音参詣を思い立ち酒匂川を渡り飯泉へやって来た。金次郎が御堂の下に膝まづいて拝んでいると、ちょうどそこへ一人の老僧がきて経を読みはじめた。

さいいて金次郎は読経の

終るのを待って、いま読まれたお経はどんなお経か、と老僧にたずねたら、観音経だといふ。ふだんきいていた観音経とちがって金次郎にもよくわかるのですっかり感激し、その理由をきくと、国語(訓よみ)で読誦したのだという。金次郎は所持金のすべてを渡して経文を再読してもらった。

老僧は再び訓読の観音経を読むのである。これを聞いた金次郎は、その足で栢山の善栄寺を訪ね、いま聞いたばかりのことを和尚に話した。和尚は感心し、「自分はこの寺から退いてもよ

いからお前は僧侶になって世間の人々を救ってくれませうか」と頼んだが、金次郎は別に志があるからといってそれを断ったという。御

住職に別れ、山門を出て右折したところが、尊徳夫人の生家である(現飯泉一五一二岡田市平宅)。尊徳は文政三年(一八二〇)

四月岡田峯右エ門の娘なみと結婚、なみ時に十六歳(後年うた子と改め)、明治四年七月一日六十七歳で没



千代台をぬけると、梅の里曾我別所に川久保家がある。尊徳の母よしの里方、弟の川久保太兵衛の子民次郎(尊徳の従弟)は尊徳今の陣屋で没したとき、尊徳の遺髪を母の実家に持ち帰り塚を作った。由来を記した遺髪塚の碑が建てられている。そこから梅の枝

(一頁よりつづく)  
ているが、奈良時代には石上宅嗣、相模国の国司の衛門府の役人の居た所であったろう、この時代石上氏の氏神様が賀茂神社であると

この神社に就いて考えて見ると、神領鎮護と国府鎮護をかねて造立されたものと思われる。京都市左京区の賀茂御祖神社(下賀茂神社)と上賀茂神社を総称して賀茂社といわれている。

上鴨宮には三王さんと山神様が祀ってある。下鴨宮には(賀茂大明神)が祀っており、合祀に足柄明神の二男、実は相武国と師長国が合併した時に神集山に一宮から六所神社まで集って座問答と言う行事がおこなわれている。

読書にふけて、土堤坊主

のあだ名をつけられたこと病父に代って土手普請に出たこと、堤防補強のため松苗を植えたことなどゆかりの深いところ。坂口は酒匂口の転訛か。

曾比の報徳堀は尊徳五十四歳(天保十一年)曾比仕法を実施のとき地下の冷水を除去するために堀った排水溝で冷害に苦しむ農家は救われた。その外に竹松の三丁田の報徳堀、小芝原の報徳堀、鬼柳の報徳堀があるようです。

尊徳記念館の裏側に通ずる道路沿いにモダンな村田医院がある。その昔、村田道仙は東柏山の村医で尊徳の父が永患いで一家困窮のとき、物心両面にわたって一家の面倒をみた仁徳ある医者である。

尊徳十九歳、この年本家再興のため稻荷社地に竹林を造成、のちやがて見事に復興を果たしたという絵本家跡をみて。善栄寺では墓前祭が行なわれ、線香の煙りは絶えない。善栄寺は尊徳一族の菩提寺で、この墓地には遺齒、遺髪を埋葬した。

金次郎、尊徳は天明七年(一七八七)七月二十三日柏山村で生まれる。寛政十二年(一八〇〇)十四歳のとき父利右エ門病没(四十

八歳)。享和二年(一八〇二)四月四日母よし病没(三十六歳)。以德報徳いわゆる報徳仕法の実践者として活躍した尊徳は日光神領復興に努力しているさなか病のため安政三年(一八五〇)十月二十日今市にて没す。享年七十歳。(院号は誠明院功善報徳中正居士)

### 雑談

(日記より)

#### ◎テレル夫妻の巻

「井上さん一寸来て下さい」と帝国ホテル会計課の部屋へ入って来た同盟通信社の記者は私にそう言ったので、「何だね」と彼の後について玄関へと行ってみた。

それは大正十三年の盛夏の頃であった。

たくさんの外国人の御客様に混って各新聞社からはこれはニュースとばかり集って居るので広い玄関も大混乱を呈していた。

「とにかくそこに立っていてくれ」と言はれるままに待つ程に一人の外人の大男を連れ来た。そして私と背比べをするんだと初めて知らされる始末、彼人は米人でテレルと言ひ、背

遺体は同地の星頭山如来寺に葬る。尊徳年譜による記念館内に在る誕生家は昭和三十五年移築還元されたもので、約二三十年を経過した江戸時代中期の足柄地方の典型的な中流農家の住宅で県の重要文化財に指定されている。

(穂坂行雄)

#### 井上英一

丈七尺五寸(Sham)の化物と思はれる程の怪物男です

並んで立って見ると彼の脇の下を悠々と通れる。私と日本人としては大型(五尺九寸)ではあるが、彼と並ぶとまるで赤子の様である。そこで新聞記者も面白半分私を呼び出して、日米背丈並をやろうと計画したそうだ。

あまりにも人を馬鹿にするにも程があるとブンブン怒ってみたものの、まあ悪い事ではないから成り行きにまかせよう。

如て彼は世界一の夫と自慢を言っているそうだ。先づ靴の大きさは一尺五寸位もあろうか、帽子に至ってはこれ又小型の雨傘の様な人種はインディアン系の米国人と思はれる。

如て其の男にあっては急型を造ったのだと鉄道関係者の話である。何しろ前代未聞の二人故、近日浅草でのふた明け興業はさぞかして大好評を博するに違いない。

#### ◎世界一小人の巻

以上は大男大女の話でした。一人人間の初祖先は何だらう?これは今でも種々の説を学者が説いております。其の内一つに人間は猿の進化したものと言っている。即ちダーウインの進化論を説いている。そして猿の種類は数十種あるが、ゴリラ、チンパンジー、オランウータンが最も人間に近いらしい。(以下次号)

### 【橘地区の民話】

#### 竹見 龍 雄

#### 小竹御座松の天狗様

その昔、村でも評判な誠に器量の良い、やさしい村小町とうたわれた娘が、ふと何処か姿を消した。両親家族が心配して近所隣りを聞き歩いたが、その行方はずっぱり判らなかつた。組織はその由を申し出た。組織は早速組下一同を集めたが、良い智恵も出なかつたので村の長老に御意見を伺うこととなった。

その長老の申すには近頃あのお座松山の神に祈るとか、お天狗様が住んでおられるとか、ことによるとお天狗様にさらわれたのではなからうかと。さあ大変、それではこの組だけではどうにもならぬ、上の組、下の組の皆の衆を頼み、ちよ

だらう?これは今でも種々の説を学者が説いております。其の内一つに人間は猿の進化したものと言っている。即ちダーウインの進化論を説いている。そして猿の種類は数十種あるが、ゴリラ、チンパンジー、オランウータンが最も人間に近いらしい。(以下次号)

